

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和7年11月18日		～ 令和6年12月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	79	(回答者数) 62
○従業者評価実施期間	令和7年11月18日		～ 令和6年12月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通所で随時活動時のお子さんの様子を保護者と共有し、振り返りや支援についてその場で助言や相談ができる環境がある。	行事や活動等を通して、親子のやりとりや関わりが増えるよう活動内容を工夫している。また保護者や保育士、友だち等からお子さんが褒められ承認されることで意欲につながるよう支援している。	親子活動の振り返りを通して、意欲につながるよう保護者やお子さんの意見を取り入れたり、ニーズに寄り添ったりしながら活動を進めていく。また活動のねらいや目的を説明していく。
2	病院内に児童発達支援センターがあることで、多職種での連携が取りやすい。	お子さんの支援をする際に療法士と連携して状況を共有するとともに、リハビリで取り入れている要素を盛り込みながら活動内容を考えている。	主治医、療法士等とお子さんや保護者の状況について情報共有に努める。
3	地域の園に通っている子どもたちが多く利用しており、親子通所のため保護者同士がいろいろな情報を得る環境があったり、併行利用がない親子にとっても、保育や行事、食事時間を通してインクルーシブな環境で過ごしたりすることができる。	各活動に合わせて、職員間で各児がどうしたら参加しやすいかを考えたり、内容を工夫したりして、環境を整えている。またクラスの状況によって、親子分離をして保護者同士が話せる時間を設けている。	保護者同士が話しやすい環境作りに努めたり、職員も含めた「おしゃべり会」を開催したり等の充実を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子通所の形をとっているが、保護者と一緒にいたい思いが強い児は活動に注目したり、参加するしたりすることが難しい様子がある。	苦手な活動があると、不安や緊張から保護者を頼ったり、保護者にやってもらおうとする姿が増え、自分で取り組むことを嫌がったり、取り組みまでに時間が掛かったりする様子がある。	イラストや文字、口頭等で活動内容の見通しを伝え、親子共に安心して通ってもらえるよう支援していく。保育士や友だちと過ごすことが楽しいと思えるような活動内容を工夫していく。
2	病院の2階に児童発達支援センターがあるため、保育に来ることのイメージが持ちにくい子どもがいる。	病院内にセンターがあるため、保育室に到達するまでは、不安になったり、活動に見通しが持ちにくかったりする。	センター入り口から保育室までのルートを壁面や写真等を活かして繰り返し知らせる。また慣れるまでは、職員が待ち受けて安心して登園できるよう支援していく。
3	職員の配置基準は満たし、療育を進めているが、様々な業務(会議、研修、出張、訪問等)を行うことで業務時間やスキルアップのために費やす時間が足りていない。	様々な業務と併行して、利用児の情報共有や支援の検討に時間を費やしたり、休憩・休暇等を取ったりすると療育準備や記録等の業務時間を確保することが難しい。	業務改善としてICTの導入を検討したり、業務の削減や効率化を話し合ったりして、時間や人員の確保に努めていく。